

●発表日: 令和4年(2022年)7月27日

## 渥美半島縄文時代貝塚研究の報告について

田原市教育委員会では、日本的に有名な渥美半島の縄文時代の貝塚研究を大学などの研究機関の研究者と一緒に調査・研究を進めています。これらの成果は、日本の縄文文化の研究の発展に寄与するばかりでなく、田原市のふるさと学習にも還元されています。

今回、研究の代表者である山田康弘教授が来庁し、発展著しい渥美半島の縄文時代貝塚研究の最新の成果を報告いただきます。また今後の研究についての懇談も行いますので、ぜひ取材をお願いします。

- 1 日 時 7月27日(水) 午後1時～
- 2 場 所 田原市役所(北庁舎2階) 教育長室
- 3 報 告 者 東京都立大学 教授 山田康弘氏
- 4 そ の 他 詳細については、別紙資料のとおり



山田康弘教授らが発掘した、保美貝塚(田原市保美町)で発掘された縄文時代の盤状集骨墓(ばんじょうしゅうこつぼ)

(担当) 文化財課 学芸員 清水俊輝 電話 (0531) 22-1720

## 資料

### 1 山田康弘さん履歴

研究分野 先史学・骨考古学・比較考古学

(縄文・弥生時代の墓制、社会構造の研究)

島根大学・国立歴史民俗博物館を経て東京都立大学 教授

第7回古代歴史文化賞優秀賞(2019)

『人骨出土例にみる縄文の墓制と社会』同成社、2008年

『生と死の考古学—縄文時代の死生観—』東洋書店、2008年

『縄文人がぼくの家に来てきたら!?!』『もしも?』の凶鑑、実業之日本社、2014年

『老人と子供の考古学』吉川弘文館・歴史文化ライブラリー、2014年

『つくられた縄文時代 日本文化の原像をさぐる』新潮選書、2015年

『縄文人の死生観』角川ソフィア文庫、2019年

『縄文時代の歴史』講談社現代新書、2019年

### 2 山田氏が渥美半島の縄文時代貝塚研究を行おうとしたきっかけ

田原市内にある吉胡貝塚、伊川津貝塚、保美貝塚は、これまで多数の縄文時代人骨が出土しているが、1920年代の調査であり詳細な考古学的記録が欠けていたことから、現在の考古学的分析に用いることが難しかった。そこで新たな人骨資料を入手するために、科学研究費を文部科学省に申請し、保美貝塚の発掘調査を行ったことがきっかけとなった。

### 3 研究の経緯

2010年から2013年まで6回にわたって保美貝塚の発掘調査を行い、**本邦初となる、二重の盤状集骨葬を含む改葬墓を発見**した。また、その後出土した人骨についてDNA、炭素・窒素同位体分析、人骨の形質の分析などを行った。また、これと並行して田原市伊川津貝塚から出土した人骨の分析を行った。これが一段落するのに10年の歳月が必要であった。

これらの成果は今年6月に日本人類学会から刊行された、国際学術雑誌Anthropological Science130-1号にて特集された。今回の発表は、これを受けて、人骨そのものから判明した新しい成果について公表するものである。

### 4 今回報告の成果の概要

- (1) 保美貝塚から検出された盤状集積墓および伊川津貝塚出土の成人女性と小児の合葬例について、人類学的な分析が行われ、先のAnthropological Science130-1に発表された。その成果の概要を以下に示す。
- (2) 盤状集骨墓に含まれる人骨の年代は、およそ3460-3330年前までに絞り込むことができ、年代でいうと、縄文時代後期末から晩期前葉にかけてのものと考えられる。
- (3) 保美貝塚の盤状集積墓から出土した人骨はいずれも、当時の他の遺跡における縄文人骨よりも太くて頑丈である。これは盤状集積墓に埋葬された人が、特殊な労働を行っていた人々であったのか、あるいは特別に選択されていた可能性を示す。

- (4) 盤状集積墓に含まれる人骨の歯の形態を調べたところ、双子ぐらい類似しているものが含まれていた。このことから盤状集積墓には血縁関係者が含まれているとみてよい。
- (5) 盤状集骨墓に埋葬されていた人骨のストロンチウム同位体分析を行った結果、渥美半島内と推定される在地の人々もいれば、田原市域を離れた遠距離からやってきた人々もいたことが明らかとなった。このことは当時の通婚圏の大きさや婚姻時の決まりを考える上で大変重要である。
- (6) 伊川津貝塚から出土した**成人女性と小児の合葬例は、ミトコンドリア DNA の分析を行った結果、直接的な親子関係にはないことが判明した。**これは本邦初の成果であり、従来、この手の事例は母子合葬例として理解されてきたが、それについては再検討する必要がある。

## 5 今後の展望

### (1) プロジェクトメンバーなど

◎全体総括:山田康弘(研究代表者)

#### 考古学班

墓制の分析・・・・・・・・山田康弘(都立大学)・設楽博己(東京大学)  
副葬品・呪術具関係の分析・・長田友也(中部大学非常勤講師)  
着服装身具の分析・・・・・・・・川添和暁(愛知県埋蔵文化財センター)  
年代比較資料としての動物遺存体の分析・・・・山崎健(奈良文化財研究所)、  
石丸恵利子(広島大学)  
渥美半島における人骨出土遺跡の分析・・・・増山禎之(田原市教育委員会)

#### 人類学班(含む同位体分析・ゲノム領域・年代学)

人骨形質の検討…近藤 修(東京大学)、水嶋崇一郎(聖マリアンナ医科大学)  
妊娠痕等による人口・年齢構造の分析…五十嵐由里子(日本大学松戸歯学部)  
古病理学的観点からの分析…谷畑美帆(明治大学)  
人骨の年代測定…米田 穰(東京大学)、坂本 稔(国立歴史民俗博物館)、  
工藤雄一郎(学習院女子大学)  
安定同位体比による縄文人の食性の分析…米田 穰、日下宗一郎(東海大学)  
DNA による出土人骨間の血縁関係の分析…太田博樹(東京大学)  
覚張隆史(金沢大学)  
ストロンチウム同位体による移動の分析…日下宗一郎、覚張隆史、  
齋藤 努(国立歴史民俗博物館)

- (2) 現在、再び科学研究費を文部科学省に申請し、採択されたため、保美貝塚における盤状集積墓の DNA の分析を継続中である。また、伊川津貝塚出土人骨の DNA 分析も継続中であり、今後の予定として吉胡貝塚出土人骨も分析を行う方向で調整している。近い将来、田原市出土の縄文人骨の家系図を作成することが可能となるだろう。